



令和6年 3月 29日

岩倉市議会

議長 関戸郁文 様

会派名 自由クラブ

代表者名 大野慎治

研修受講報告書

このことについて、下記のとおり実施しましたので報告いたします。

記

- 1 実施日 令和6年 1月 10日(水)～1月 11日(木)
- 2 研修先 JIAM 財政研修
- 3 出席人数及び氏名

1 名	日比野 走	

- 4 復命事項

別紙のとおり

1月10、11日 JIAM 財政研修

1月10日 稲沢教授 議員の役割

ストック・人モノ、お金など

2010年から道路維持費の確保が出来なくなってる。

財政民主主義

租税や公債などで、住民に貨幣的負担を負わす政府の行為。原則として議会の承認を経る事。歳入歳出は予算決算ともに議会の承認が必要。

12月の時点で、来年度予算に事業を乗っけていく理由を当局に求め、模索していく。

自治体財政健全化法

財政健全化団体→イエローカード。

イエローカードを見ていって、レッドカードにならないようにする。

自治破綻

国破綻 国債を持たれなくなり、デフォルトの危機がもたれる。

国からの制度的対応

地方税、地方交付税にもとづくマクロ、ミクロ両面の保障

マクロ→地方財政計画の公債費に元利償還金を計上

→普通交付金の基準財政需要額に元利償還金を算入し、ミクロ（個人団体）の財源を確保

一般→決算予算の中で、将来負担比率も合わせてみる。予算と決算の質問を連動させる。

夕張化の原因

赤字の文字だけで決めていた。

自治体からの挙手性

ストック指標で見ていなかった。

自治体財政指標の見方 小室将雄

ラスパレイス指数 国の職員の俸給額を 100 として、一般行政職との俸給額の割合を見る。基本給のみでの比較となっているので地域手当補正後のラスパレイス指数も算出している。

演習

京都府京丹後市	谷津信幸議員	奈良県高取町	野口勝也議員
群馬県渋川市	高澤 幹議員	福井県高浜町	釣木音次議員
宮崎県日向市	黒木克彦議員	愛知県岩倉市	日比野走

北海道の夕張市の財政破綻を契機に、自治体財政健全化法が施行された。

A 県O市と仮称された自治体の財政状況を見てそれに対する推察を重ね議論を深めていく。最初に資金繰り、公債費負担、人件費負担、ストック、それぞれの状況をまとめることになった。

資金繰り状況→ 公営企業会計等の財政状況を見ると、下水道事業会計と病院事業会計における他会計からの繰入金が多いので、現状は健全でも先々に不安が残る

公債費負担→ 財政健全化団体への警戒域とされる 15%に到達している。

人件費→ 国職員の俸給額をと市職員の俸給額を比較したラスパレイス指数では 98,5% を示しており、大きく差がつくものではなかった

ストックの状況→ 有形固定資産減価償却率を見てみると、現状では 58.6%と比較的良好な数値ではあるがこの背景には、当時震災で被害を受けた部分をまとめて補修した事項が要因として存在する。しかし一挙にまとめて補修したという事は、次の補修サイクルがまとめてやって来ることと同義であり、今後の補修サイクルで手が回らなくなってしまうぬよう、散分的な補修対応が必要であると考えられる。

演習まとめ

演習モデルとなった自治体は青森県奥州市であると判明した。財政上の問題として、前述の下水同事業会計や病院事業会計に難をかかえている状況であるので、現状ではふるさと納税をはじめとした寄附金や、災害復興特別交付税等の基金を使っていかなければならないのではないかと思われる。また、公共施設等の補修のサイクルがまとめてくるので、それら

の負担を散分させた対応が求められる他に、コロナで自粛されていた近隣の競馬事業の行方も注視しなければならない。

実質公債費比率は10年間で減少傾向。ただ、カーブが緩くなっているのでこれ以上は酷くならない込み。比率の低くなりすぎは、適切な投資ができてないともいう。

令和3年の時点で経常収支比率は90%を下回るが、「臨時経済対策費」等で地方交付税追加交付の影響によるものとされる一時的なモノ。

令和6年度の地方財政への対応等についての意見（概要）
地方公共団体の経営・財務マネジメント強化事業

年間5回程

アドバイザーの派遣経費は地方公共団体金融機構が負担

地方公営企業

水道

利用者減って、水道料金による儲けさがるが、水道管自体は減らす事は出来ないので、負担は結果的に増えてく。

貸借対照表

1人あたりの予算を見るとき、少なれば財政力乏しく

多ければサービス充実しているか、負担大きいか補助金→使えてる？

自治体の継続性と、大きな社会環境の変化の対応を加味（DX、AI、子育て支援等）を見て予算、決算編成される。

感想

聞きなれない単語も多く、戸惑うものばかりの講習になってしまった。演習の部分でも同班の、財政の話に詳しい議員に助けられた部分が多く、一度の講座で財政知識を落とし込めたとは言いがたいのが正直なところである。ただ、JIAMの財政講座については二回目以降の受講から話が分かっていくというのが議員まわりでの専らの噂だそう。財政に疎いまま

ではいけないので、2回目以降のJIAMの財政講座からも目を離すことが出来ない。繰り返し受講していく事で、今後の議員活動に必要な知識を蓄えていく所存である。